

令和 7 年度

## 第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

		提出日	R7.6.23			
担当	課名	学校教育課				
	グループ名	学校給食センターグループ				
1 事業概要		記入者名				
(1)事業名	学校給食センター管理運営費		(2)事業種別 (新規・継続)	継続		
(4)第5次総合振興計画での位置づけ		(5)予算・財源等の別				
①基本目標	豊かな心をはぐくむまち(教育・文化の振興)		①会計区分	一般会計		
②大項目	義務教育		②財源区分	町単独		
③中項目	教育環境の整備		③予算科目	款 10 項 5 目 3		
④施策	学校給食体制の整備		④予算事業名	学校給食センター管理運営費		
⑤施策コード	2・5・1・3	掲載ページ	41	ページ		
(6)実施根拠		(7)総合戦略				
①事務分類(自治・法定受託)	自治事務		①総合戦略			
②根拠法令・条例等	学校給食法		(該当事業名)	おがわん野菜購入補助金		
③事業期間	開始 不明 年 月から	終了	未定 年 月まで			
2 事業の目的・内容等						
(1)目的(何のために行うか)		(2)内容(どのような取り組みか)				
・安全安心な給食を確実に提供する。 ・おがわん野菜等を学校給食で積極的に使用し、特色のある学校給食を提供する。(おがわん野菜購入補助金)		・年185回、給食を提供する。 ・施設や調理機械・器具等を適切な状態に保つ。 ・他産地の野菜等と、おがわん野菜との価格差を学校給食会計に対し補助をする。(おがわん野菜購入補助金)				
(3)対象(誰に対して、何に対して行うか)		(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)				
・町内全小中学校7校の児童・生徒・教職員と給食センターの職員。		・施設等を適切な状態に保ち、給食事故を起こさない。 ・おがわん野菜等を学校給食で使用することにより、安定的な販路の確保による農業者支援、また、特色ある学校給食を提供することで、食に関心を持つ世代に広くおがわん野菜をアピールし、ひいては定住人口の獲得。(おがわん野菜購入補助金)				
対象数	1,549	単位	人			
(5)事業を取り巻く環境(社会環境や町民ニーズ等)						
・施設および設備の老朽化が顕著である。 ・地場の野菜等を学校給食に多く使用することで、地産地消の拡大による持続可能な社会の構築や、おがわん野菜の生産量が増えることにより農業者の所得の増加につながる。また、近隣自治体では実施していない補助制度の為差別化が図られている。(おがわん野菜購入補助金)						
(6)SDGsへの貢献						
						
3 事業のコスト(実績・決算・予算)		(単位:千円)				
(1)事業(内容)名称		学校給食センター管理運営費				
項目	決算・予算年度	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算		
			実施年度(R6年度)決算	今年度(R7年度)当初予算		
(2)事業費	直接事業費合計	12,474	15,019	14,532	19,947	26,686
内訳	報酬・一時金(会計年度任用職員)	18,214	19,441	19,659	20,515	21,730
	需用費	725	694	694	675	776
	役務費	3,917	3,923	3,985	4,530	4,657
	委託料	109	146	132	77	300
	おがわん野菜購入補助金	5,386	893	45,288	1,792	1,044
	その他	40,825	40,116	84,290	47,536	55,193
(3)財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0	0
	一般財源	40,825	40,116	84,290	47,536	55,193
	合計	40,825	40,116	84,290	47,536	55,193
(4)補助金名						
(5)人件費						
投入職員数	9.8	9.8	8.8	7.8	5.8	
年間人件費	74,754	73,912	66,185	60,622	46,586	
(6)総事業費	115,579	114,028	150,475	108,158	101,779	
サービス量(食)	320,420	310,060	298,158	288,415	269,360	
サービス単価	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	
(単位)	千円／給食提供 1食あたり					

4 指標の検証		学校給食センター管理運営費			
指標名		単位	R5年度決算	実施年度(R6年度)決算	今年度(R7年度)予算積算
(1)活動指標(実施した事業の量)					
指標名	目標値				
	実績値				X
	達成率				X
	目標値				
	実績値				X
	達成率				X
(2)成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度)					
指標名	目標値				
	実績値				X
	達成率				X
	目標値				
	実績値				X
	達成率				X
(3)その他指標に現れない成果					
小川町産の野菜を積極的に取り入れ、地産地消に取り組んだ。また、おがわん野菜購入補助金に関しては、13品目の野菜を使用して特色のある給食を提供した。					
5 事業評価					
(1)項目別評価					
評価項目		評価		評価理由	評価した理由を選択してください。
必要性	事業の必要性	1	1 必要性は高い 2 どちらともいえない 3 必要性が低い	1	1 事業の実施が関係法令等で定められている 2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である 3 その他( )
妥当性	実施主体の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	1	1 事業の主体が関係法令等で定められている 2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である 3 その他( )
	手段の妥当性	2	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	2	1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している 2 他に有効な代替手段が見当たらない 3 その他( )
効率性	コスト効率性 人員の効率性	2	1 効率的である 2 どちらともいえない 3 効率性が低い	2	1 サービス単価は減少している 2 サービス単価を維持している 3 その他( )
公平性	受益者の偏り	1	1 偏りはない 2 どちらともいえない 3 偏りがある	1	1 公平に分配されている 2 おおむね公平に分配されている 3 その他( )
有効性	成果の向上	2	1 成果が上がっている 2 どちらともいえない 3 成果が下がっている	3	1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている 2 成果指標は、前年度より向上している 3 その他(指標での判断は難しいが、安心安全な給食の提供は果たせた。)
進捗度	事業の進捗	2	1 順調に進んでいる 2 概ね順調である 3 あまり順調に進んでいない	1	1 年度内に予定した事業は完了した 2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した 3 その他( )
(2)総合評価(上記結果を踏まえて、今後の課題と対応を記載してください。)					
施設や設備が老朽化し修繕が多発している。機械によっては導入から相当の年数が経過しているため修理部品がない、もしくは特注となり修繕には多額の費用を要する。設備が旧式なため人員を必要とする施設もある。また、現在使用しているアルマイトのランチプレートは製造中止となっており、新たに購入することができず状態の悪いランチプレートで給食を提供せざるを得ない(ランチプレートが一体型であるため食事の際、姿勢が悪くなってしまい食育の観点からも好ましくない。ランチプレートの変更には食器洗浄機を入れ替える必要がある)。センター更新にあたり人員・予算が必要となる。おがわん野菜購入補助金に関しては、補助は他産地との差額分であり、おがわん野菜の出荷量(需要と供給)に左右される。					
6 事業の方向性の判断		1 拡充 2 現状維持 3 縮小・統廃合			
評価主体	評価	評価についての説明			
(1)一次評価 (担当課長)					
(2)二次評価 (政策推進課長)					
(3)最終評価 (町長)	2 現状維持	安全・安心な給食を提供するため、施設の更新を適切に進める。また、小川町産の野菜を使った給食を引き続き提供する。			